

芸術鑑賞による感動が触発に及ぼす影響 —美しさの知覚, 畏敬の念, 意味生成の観点から—

Influence of being moved on inspiration through art appreciation: From perspectives of beauty, awe, and meaning-making

澤田 和輝^{†‡}, 小池 光[†], 村山 新[†], 西田 帆花[†], 野村 理朗[†]

Kazuki SAWADA, Hikaru KOIKE, Arata MURAYAMA, Honoka NISHIDA, Michio Nomura

[†]京都大学, [‡]日本学術振興会

[†]Kyoto University, [‡]Japan Society for Promotion of Science

sawachan0821@gmail.com

概要

本研究は、美しさの知覚、畏敬の念、意味生成の観点から、芸術鑑賞においてどのような感動が触発—創造的活動への高い動機づけ—を引き起こすのかを検討した。その結果、絵画に対する畏敬の念や意味生成から生じる感動が触発を促すこと、また、畏敬の念や意味生成の効果を統制した場合に絵画の美しさは触発と関わらないことが新たに示された。

キーワード: 触発, 創造性, 芸術鑑賞, 感動, 意味生成, 畏敬の念

1. 問題と目的

美術館の展示、流行りの映画等、他者の創造的作品を見た後で、新たなアイデアが思いつきそれを実現したくなった経験や自分自身も何か新しいものを作りたくなった経験はないか？このような動機づけは触発 (inspiration) と呼ばれ [1], 近年心理学や認知科学分野で注目を集めているテーマの一つである [2]。近年の研究より、とりわけ美的に感動する絵画の鑑賞が触発を促すことが示されている [3]。しかし、美的感動を喚起する要因は作品の美醜などの知覚的処理から作品の意味や作者の創作意図など意味的処理まで様々であり [4], どのような鑑賞プロセスが感動を通して触発を引き起こすのかは知られていない。本研究では、感動と関連すると考えられる [4, 5], 美しさの知覚、畏敬の念と意味生成に焦点を当て、これらが感動、そして触発を引き起こすのかどうかを検討した。

意味生成—作品の意味や作者の意図を見出す意味的処理—は芸術鑑賞による触発を促進する [6, 7]。例えば、絵画を鑑賞中に作品の意味や作者の創作意図を推測する個人ほど、絵画を鑑賞中に触発を得やすい [6]。また、芸術鑑賞中に他者の創作過程の推測や評価をする傾向のある個人ほど、日常生活の中でより高い頻度や強度の触発を得ている [7]。意味を深く見出すことのできる絵画が美的感動を引き起こすことを考慮して [4], 意味

生成による感動が触発を引き起こすと仮説立てた。また、これまでの研究が、美しさの知覚よりも意味生成の方が触発に重要な役割を担っていることを示唆している。芸術鑑賞において知覚的情報や感情評価よりも意味的処理を重視する熟達者の方が [8], 初心者と比較して触発を得やすい [2, 7]。これらの知見を踏まえ、意味深さ同様に美しさも美的感動を引き起こす要因であるが [4, 5], 作品の美しさによる感動というよりも意味生成による感動が触発を促すと仮説立てた。

他の研究では、畏敬の念が触発と正に関連することが示されている [9]。畏敬の念は既存の認知的枠組みを超越するような知覚的あるいは比喩的に広大な刺激に対して生じる感情反応であり [10], しばしば芸術作品により喚起される [11]。畏敬の念を喚起する音楽が楽しさを喚起する音楽よりも触発を促進することも示されている [9]。畏敬の念が美的感動と正に関連することを考慮して [5], 畏敬の念が感動を通して触発を引き起こすと仮説立てる。

本研究では、鑑賞プロセスに伴う美しさの知覚、畏敬の念、意味生成に着眼し、これらが感動を通して触発を促進するのかを検討した。芸術鑑賞による触発を測定するために、創造的筆記課題を修正し用いた [3]。この課題では、参加者は絵画を鑑賞した後に、絵画に対して短い創造的な物語を執筆し、執筆後に執筆中に触発を感じた程度を報告することが求められる。そのため、非芸術専攻の人々においても実際の創造的活動への動機づけを直接的に検討することができる。意味生成と触発との関連を検討した先行研究は [6, 7], 課題と無関連な触発を測定していた。本研究では、感動と課題関連の触発の観点から、触発の心理学的機序に関する理解の拡張を図る。上記の議論を踏まえて、絵画鑑賞時の知覚された美しさの程度ではなく畏敬の念や意味生成の程度が美的感動を正に予測し、転じて創造的執筆課題における触発を正に予測すると仮説立てた(仮説 1)。

また、作品の意味や作者の創作意図を推測する鑑賞、ならびに作品の美しさの印象を評価する鑑賞の二つの鑑賞態度をそれぞれ教示により導入することにより、意味生成の鑑賞プロセスを重視するマインドセットが感動および触発に及ぼす影響についても検討した。意味推測の教示が美しさ評価の教示よりも感動、転じて触発を促すと仮説立てた(仮説2)。

2. 方法

参加者 京都大学の大学生・大学院生 34 名が参加した。サンプルサイズは、対応のある t 検定で中程度の効果量(Cohen's $d = 0.50$)を有意水準 $\alpha = .05$, 検定力 $\beta = .80$ で検出するために必要とされる 34 名とした。実験課題の教示を無視した 1 名を除いて、33 名($mean\ age = 21.48$, $SD = 2.28$, 女性 14 名, 男性 19 名)のデータを分析対象とした。この研究は京都大学大学院教育学研究科の研究倫理審査委員会の承認を得て実施された。

材料 先行研究を参考に [3], まず、オンライン美術館, THE NATIONAL GALLERY から 64 枚の絵画の画像を選定, 予備実験を行い以下の 8 枚を実験刺激として選定した(表 1)。

表1. 実験の刺激一覧

Title	Artist	Size
<i>Seaport with the Embarkation of the Queen of Sheba</i>	Claude	800 x 609
<i>Cenotaph to the Memory of Sir Joshua Reynolds, erected in the grounds of Coleorton Hall, Leicestershire by the late Sir George Beaumont, Bt.</i>	John Constable	653 x 800
<i>The Procession of the Trojan Horse into Troy</i>	Giovanni Domenico Tiepolo	800 x 473
<i>A Shipwreck in Stormy Seas</i>	Claude-Joseph Vernet	800 x 558
<i>A Girl at a Window</i>	Louis-Léopold Boilly	660 x 800
<i>Alexandrine-Emilie Brongniart</i>	Elisabeth Louise Vigée Le Brun	650 x 800
<i>View of Capri from Anacapri</i>	Charles Rémond	800 x 604
<i>The Tempest</i>	Peder Balke	800 x 669

Note. Painting titles and artist names taken from the National Gallery.

手続き 全ての手続きは実験室で実施された。まず参加者は年齢、性別等に回答した後、創造的執筆課題に取り組んだ [3]。まず、参加者は、“作者の意図や作品の意味を推測しながら鑑賞して下さい”(意味推測条件)あるいは“作品が美しいかどうか、作品の印象のみを判断しながら鑑賞して下さい”(美しさ評価条件)のいずれかの教示を 10 秒間呈示された後に、絵画を 30 秒間呈示され鑑賞する。その後、絵画に対して別々の短い創造的物語を執筆することが求められる。参加者は、絵画から思いつくことはどのようなことでも書いて構わないこと、ただし単に絵画それ自体の説明や絵画に対する自分の意見や感想を書くことはやめるように教示された。また、執筆の制限時間は 300 秒間で残り時間は画面上に表示されており、時間内に物語を書き終えるこ

とを意識するよう教示された。執筆後、執筆中にインスピレーションを感じた程度、鑑賞中に絵画に感動、美しさ、畏敬の念、作品の意味を感じた程度をそれぞれスライダーバーで 0(全く感じなかった)から 100(非常に感じた)で評定することが求められた(図 1 参照)。なお、参加者にはインスピレーションという言葉の定義として、インスピレーションには創造的な文章を書きたいという強い欲求が含まれ、インスピレーションがないということには書くことを躊躇ったり、気が進まなかったりすることが含まれるという旨の教示を行った。一連の手続きはブロックデザインで実施され、ある条件で 4 試行取り組んだ後、もう一方の条件で 4 試行に取り組んだ。刺激の順序はランダム化され、教示の順序はカウンターバランスされた。なお、課題において、呈示される絵画に対して別々の物語を書くという教示にも関わらず、一続きの物語を執筆した参加者 1 名を分析対象から除外した。

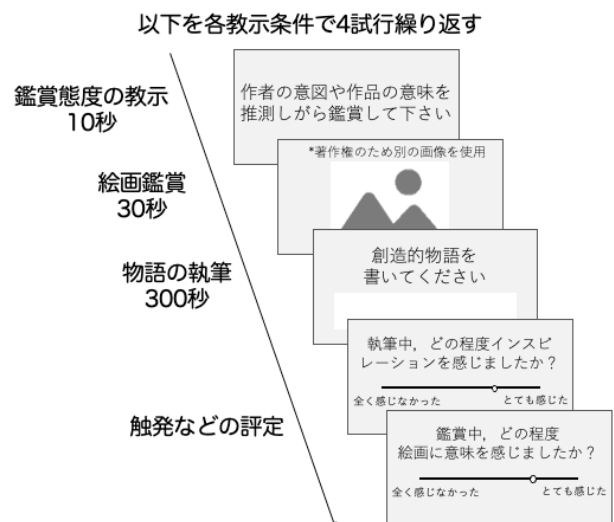


図 1. 実験手続きの概要

3. 結果

各条件における美しさ、畏敬の念、意味生成の程度と触発と感動の程度との関連を検討するために、条件ごとに相関分析を行なった(図 2)。その結果、意味推測条件と美しさ評価条件において、意味生成が触発と感動と正に相関した。一方で、美しさと畏敬の念は、意味推測条件では触発と感動と正に相関したが、美しさ評価条件では相関しなかった。また、他の変数の効果を統制した効果を検討するために、条件ごとに偏相関分析を行なった(図 3)。その結果、意味推測条件と美しさ評価条件において、美しさと畏敬の念の効果も統制しても、

意味生成が触発と感動と正に相関した。また、美しさと意味生成の効果を統制しても、意味推測条件においては畏敬の念が触発と感動と正に相関した。一方で、畏敬の念と意味生成の効果を統制すると、両条件において美しさは触発と感動と相関しなかった。

表 2. 意味推測条件(下三角)と美しさ評価条件(上三角)での各変数間の相関係数と95%信頼区間

変数	1	2	3	4	5
1. 触発	-	.75	.29	.52	.31
2. 感動		[.55, .87]	-.06	.29	-.04
3. 畏敬の念			[.16, .70]	.18	.38
4. 意味生成				-.18	.49
5. 美しさ					[.04, .64]

表 3. 各条件での変数間の偏相関係数と95%信頼区間

変数	意味推測条件		美しさ評価条件	
	触発	感動	触発	感動
畏敬の念	.47	.58	.19	.32
意味生成	.85	.52	.47	.38
美しさ	.07	.08	.11	.56

さらに、意味生成と畏敬の念が感動を通して触発に及ぼす影響を検討するため、ブートストラップ法($N = 10,000$)を用いて媒介分析を実施した(図 4)。その結果、意味推測条件と美しさ評価条件において、意味生成が感動を正に予測し(意味推測条件: $b = 0.48$, $p = .001$, 95%CI [0.18, 0.77]; 美しさ評価条件: $b = 0.52$, $p = .006$, 95%CI[0.07, 0.81]), 転じて触発を正に予測した(意味推測条件: $b = 0.43$, $p < .001$, 95%CI [0.23, 0.59]; 美しさ評価条件: $b = 0.74$, $p = .001$, 95%CI[0.33, 1.22])。また、間接効果も統計的に有意であった(意味推測条件: $b = 0.21$, $p = .006$, 95%CI [0.06, 0.36]; 美しさ評価条件: $b = 0.38$, $p = .05$, 95%CI [0.04, 0.79])。意味推測条件においてのみ、畏敬の念が感動を正に予測し($b = 0.61$, $p < .001$, 95%CI [0.30, 0.93]), 転じて触発を正に予測した($b = 0.73$, $p < .001$, 95%CI [0.41, 1.01])。間接効果も統計的に有意であった($b = 0.45$, $p = .002$, 95%CI [0.17, 0.74])。

また、鑑賞態度に関する教示の効果を検討するために、触発と感動の程度の中値に対して、対応のある t 検定を実施した。その結果、条件間で統計的に有意な差は確認されなかった(図 2; 触発: $t(32) = 0.16$, $p = .87$; 感動: $t(32) = 0.60$, $p = .55$)。探索的に、教示が美しさ、畏敬の念、意味生成の程度に対して及ぼす影響を検討

するため、対応のある t 検定を実施した。その結果、いずれの変数に関しても条件間で統計的に有意な差は確認されなかった($|ds| \leq .60$, $ps \geq .55$)。

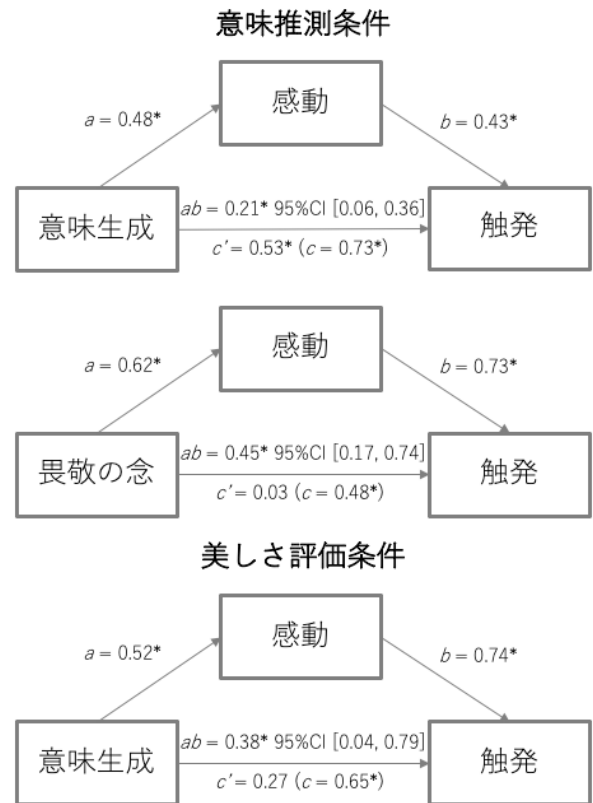


図 2. 媒介分析の結果

表 4. 各条件での各変数の平均値と標準偏差、および各変数の条件間差

従属変数	教示の条件		t	p -value
	意味推測	美しさ評価		
触発	58.42 (16.57)	58.84 (18.49)	0.16	0.87
感動	48.38 (17.08)	50.13 (16.27)	0.60	0.55
畏敬の念	47.94 (16.73)	50.05 (17.94)	0.60	0.55
意味生成	55.78 (18.96)	54.89 (14.95)	-0.27	0.79
美しさ	60.99 (14.01)	61.83 (14.22)	0.25	0.80

4. 考察

本研究では、感動を通して触発を促す芸術鑑賞プロセスを解明することを目的に実験室実験を行った。

実験の結果、芸術鑑賞時の感動が続く創造的執筆における触発と正に相関し、日本人サンプルにおいても先行研究 [3] の結果を再現するとともに、本研究により、鑑賞中の構えに関わらず、意味生成が感動を介して触発を正に予測することが新たに示された。また、美しさの知覚は意味推測条件でのみ触発と正に関連し、意

味生成や畏敬の念の効果を統制した場合にはどちらの条件でも触発と関連しなかった。これらのことは、美しさの知覚による感動よりも、作者の意図や作品の意味を見出す事による感動が創造的活動を動機づけることを示唆しており、仮説1を支持している。また、本研究の結果は、美的感動がこれまで課題無関連の触発研究で示されてきた [6, 7] 意味を推測する鑑賞態度と触発との関連を説明する可能性を新たに示唆する。

意味推測条件でのみ畏敬の念もまた感動を正に予測し、転じて触発を正に予測した。これらの結果は、畏敬の念が感動や触発と正に関連することと部分的に符合する [5, 9]。畏敬の念は既存の認知的枠組みを超越する刺激に対して生じる感情反応であり [10]、これらの結果は、作品の意味や創作意図に関して既存のスキーマの更新を必要とする鑑賞経験が感動を引き起こし、転じて、更新されたスキーマを表現するよう創造的活動への動機づけを高めることを示唆するかもしれない。また、従来、畏敬の念と触発はともに創造性とも正に関連することが示されているが [9, 12]、本研究の見解は芸術作品により喚起される畏敬の念が触発を通して創造性を高める可能性を新たに示すものである。

なお、教示により美しさの評価する鑑賞態度と意味を推測する鑑賞態度を実験的に操作することを試み、教示の効果を検討したが、教示が触発、感動、美しさの知覚、意味生成、畏敬の念に影響を及ぼすことを示唆する結果は得られず、仮説2は支持されなかった。これらの結果は少なくとも30秒間の鑑賞時間では教示の効果がないことを示唆する。なお、本実験における鑑賞時間は、一般的に人々が美術館で一つの芸術作品を鑑賞する時間が20秒から30秒程度であるという知見に基づいていたが [13]、近年、作品の鑑賞時間の長さが作品の金銭的価値や作者のスキルの高い評価につながることを示されており [14]、鑑賞時間は美的経験における重要な要因であると示唆されている。今後はより長い或いは自身のペースでの鑑賞において鑑賞態度の教示が触発に及ぼす影響を検討する必要がある。

5. 結論

本研究は、芸術鑑賞において、畏敬の念と意味生成が感動を喚起し、転じて創造的執筆における触発を引き起こすことを明らかにした。本研究の結果は、美しさ、畏敬の念、意味生成の観点から、芸術鑑賞による触発の心理学的機序の理解を深める。

文献

- [1] Harding, R. E. M. (1948). *An anatomy of inspiration: And an essay on the creative mood*. Cambridge, UK: W. Heffer and Sons.
- [2] Thrash, T. M., & Elliot, A. J. (2003). Inspiration as a psychological construct. *Journal of Personality and Social Psychology, 84*, 871–889.
- [3] Welke, D., Purton, I., & Vessel, E. A. (2023). Inspired by art: Higher aesthetic appeal elicits increased felt inspiration in a creative writing task. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts, 17*(3), 261–277.
- [4] Vessel, E. A., Maurer, N., Denker, A. H., & Starr, G. G. (2018). Stronger shared taste for natural aesthetic domains than for artifacts of human culture. *Cognition, 179*, 121–131.
- [5] Silvia, P. J., Fayn, K., Nusbaum, E. C., & Beaty, R. E. (2015). Openness to experience and awe in response to nature and music: Personality and profound aesthetic experiences. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts, 9*(4), 376.
- [6] Ishiguro, C., & Okada, T. (2019). The process of how art appreciation inspires artistic creation. *The Japanese Journal of Psychology, 90*, 21–31.
- [7] Ishiguro, C., & Okada, T. (2017). The study of art and its effect on external inspiration: A comparison between art majors and non-art majors. *The Japanese Journal of Psychology, 88*, 442–451.
- [8] Parsons, M. J. (1987). *How we understand art: A cognitive developmental account of aesthetic experience*. Cambridge, England: Cambridge University Press.
- [9] Ji, Q., Janicke-Bowles, S. H., De Leeuw, R. N., & Oliver, M. B. (2021). The melody to inspiration: The effects of awe-eliciting music on approach motivation and positive well-being. *Media Psychology, 24*, 305–331.
- [10] Keltner, D., & Haidt, J. (2003). Approaching awe, a moral, spiritual, and aesthetic emotion. *Cognition and Emotion, 17*(2), 297–314.
- [11] Bai, Y., Maruskin, L. A., Chen, S., Gordon, A. M., Stellar, J. E., McNeil, G. D., Keltner, D. (2017). Awe, the diminished self, and collective engagement: Universals and cultural variations in the small self. *Journal of Personality and Social Psychology, 113*, 185–209.
- [12] Chirico, A., Glaveanu, V. P., Cipresso, P., Riva, G., & Gaggioli, A. (2018). Awe enhances creative thinking: an experimental study. *Creativity Research Journal, 30*(2), 123–131.
- [13] Smith, J. K., & Smith, L. F. (2001). Spending time on art. *Empirical Studies of the Arts, 19*(2), 229–236.
- [14] Morris, D. M., & Alvey, C. J. (2022). Knowledge and the perceived value of paintings: The role of time, presence, and the contagion effect on art evaluation. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*. Advance online publication.